

第3回トドマツ人工林更新技術検討会 議事概要

- ◆場所：北海道森林管理局 大会議室
- ◆日時：2015年2月5日 14:00～16:00
- ◆出席者：別紙のとおり
- ◆配布資料：別紙のとおり
- ◆報告書案をもとに行われた意見交換において出された主な意見

●実験処理・デザインに関する意見

- ・ 森林総研では皆伐の伐採時期の違いによる影響についても関心を持っており、295は林小班の実験区での小面積皆伐は、秋季だけでなく冬季も実施してほしい。
- ・ エロージョンについては、上木があれば林内気象はだいぶ異なるので、近隣地の完全な裸地でのケースとは異なることから、それほど心配はないと思う。
- ・ グラップルで地表処理する場合は、ササの根を完全に除去したほうがよい。
- ・ ササ刈りを効果的に行うため、ササが最も再生しにくい時期を文献等で調べておいたほうがよい。
- ・ 295は林小班では、ミズナラなどの広葉樹は残してほしい。また、ミズナラ等の広葉樹下では、トドマツは育たないため、補植しないようにしてほしい。
- ・ 地がきによって広葉樹が発生しても、除去せずにトドマツ稚樹と同様に扱ってほしい。

●検証方法に関する意見

- ・ 中央列を伐採する際は、支障木が増えると思うので、伐採後には確認するようにしてほしい。
- ・ 風倒木が発生する可能性は、樹冠長率（樹冠長／樹高）で評価するのがよい。50%に近ければ心配なく、30%以下だと危険性が高い。
- ・ 光環境については、胸高断面積を指標として推定ができるので、今回の事業で関係性を整理するとよい。
- ・ 稚樹の樹形を調査することで、伐採処理後の成長と伐採前の稚樹の樹形の対応関係についても分析できる。
- ・ 検証項目に稚樹の更新に関する項目はあるが、経費などのコスト面についても検証する必要があることから、調査項目に含めたい。

●天然更新事業が可能な林分の整理について

- ・ 天然更新事業が可能な林分の調査を行う際、ミヤコザサやクマイザサ地域に限定せず、林分レベルの管理状況（樹冠が閉鎖してササを衰退させてから間伐している林分など）によっても更新の可能性があるため、その他の地域を含めて全道的に調査してほしい。

- ・ 通常の事業において、樹冠が閉鎖してササを衰退させた後に間伐を行うなど、意識して稚樹の更新を促すことが可能であるため、そのような取り組みも行って欲しい。

●天然更新の目標密度について

- ・ 目標設定では、下刈り完了時（2 齢級）の際の密度で想定するのがよい。下刈り完了時で、1500～2000 本/ha あれば十分と思う。また、天然更新は均一に更新しなくてもよいと思う。
- ・ 通常の植栽密度を基準にした目標数値だと、現時点でかなり高密度なため、正確に成否を評価できない可能性もある。現在の稚樹密度に対する割合や、一定以上の大きさの稚樹の密度というものを用いることも考えられる。
- ・ 今回の調査で明らかになっていく部分もあることから、検証結果から目標密度についての知見を得られるのではないか。

●その他

- ・ 295 は林小班のように 20 年間も間伐しないようなことは避けて、主伐までを計画的に考えることが必要である。
- ・ 通常の人工林であれば、下刈り完了時までには 100～150 万円/ha の経費がかかるため、50 万円/ha まで下がるだけでも効果が大きく評価できる。
- ・ 全面きれいに天然更新が成功することはないので、柔軟な措置ができるようなマニュアルにしてほしい。